



新潟県山野草をたずねる会機関紙
第10号
会員数64名(12/2現)
事務局
長岡市下条町1406-6
印刷 刷
(有)佐藤印刷所
TEL 32-0681

自然とは何か

新潟県山野草をたずねる会々長

小日向 孝

☆ 緑があれば自然か

「自然」というと視覚的なイメージで「緑」を連想し、あるいは緑のある風景を頭に描くかもしれません。とかく緑があれば「自然」なんだと一面的にとらえられがちです。

街には街路樹の緑・公園の緑もある。それに山々は緑で覆われているし、と、意識しなくても案内緑が目に入ってくるので、それだけ安心してしまふのです。しかし、街路樹をよく見てみると、イチヨウ、ポプラなどと単一の樹種でしかも外来種がほとんどであることに気づくはず。これは、見栄えと管理が簡単だという人間の都合だけで、地域の自然植生をまったく無視した俗にいう「ミッキーマウス植生」です。ドイツ・ニランダの緑と同じようなもので、決して「自然」ではないのです。

自然植生とは、ある地域が自然の状態にあるときに本来生える植物集団をいいます。公園や校庭などに植えられる樹木も、同じように自然植生を配慮されない場合がほとんどです。「緑があれば自然」なんだという誤った考え方は、エスカレートすると本物の木ではなく壁に描いた緑の森の絵で代用させたりすることにもなります。

日本の国土の六七％は森林ですが、この数字に安心してはいけません。森林のうちスギ・ヒノキ等の人工林が四一％を占めているのです。戦後の林業政策の結果です。植林のための皆伐・大量の農薬による草木の除去による植林は自然保護の観点からいえば立派な自然破壊です。

人工林を見て「自然」だと思っている人の中には人手不足で人工林の管理

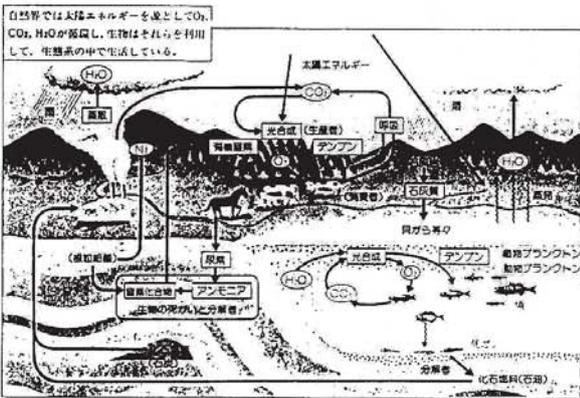
が行き届かなくなり、本当の「自然」に戻りつつある森を見て「山が荒れている」と表現し、自然破壊が進んでいると思っている人が多いのです。本当の自然の理解と認識を持ち、ビオトープ自然観への転換が望まれます。

☆ エコロジカルな自然観

自然というものは土壌中の微生物をはじめ、いろいろな動植物などによって構成されているのです。その地域本来の多様性を持っていない単調な「自然」は本当の「自然」ではないということ。本当の自然観とは、「自然」の中の一部分だけを保護しようという考えが出てくるような自然観ではなく、多様性と地域特性を持つ「自然」を全体として丸ごととらえようとする自然観です。これがエコロジカルな自然観です。

これまでの自然観には「自然」の構造を理解して、全体のバランスに常に配慮するという観点が欠けていたのではないのでしょうか。「緑」も確かに「自然」の構成要素ですが、しかし、「緑」を増やすことだけを考えると、自然の持つ他の構成要素を無視する運動は真の「自然保護」といえないと思います。さまざまな要素によって有機的に構成された自然のシステムを生態系（エコシステム）といいます。自然を保護するとは「生態系」を保護することを意味しています。つまり、生物（動植物）と非生物環境全体にはたっている循環システムの保護だと思えます。△自然界の五大要素▽

これまでの緑化運動や植林方法に見られた、人間の管理主義と利己主義をあらため、「人間がいて自然がある」のではなく「自然の中の人間である」という基本にたつた自然観の確立が望まれます。私たちが永続的に生々発展し続け、生命や生活の安全と安定を保障してくれるもの、それは本当の自然なのです。植樹を例にとるならば、その土地にあわないう樹種でなくその土地の人々と数百年共存してきた、ふるさとの木によるふるさと森づくりであり、古くて新しい人間生存環境づくりです。いいかえるならば、潜在自然植生の構成種による森づくりなのです。



!! 育て・ふるさとの樹 !!

十月十四日(土) 秋の野に学ぶ会と併せ、みどりを育てる活動として市内下条神社境内にシロダモ、アカガシの苗木の植栽を行いました。

この活動は、本物のみどりで囲む家と町をつくり、人々が健康で生々発展していけるみどり豊かな生活環境づくりを目指して平成四年から取り組んでいます。

本物の自然のあり方を認識し地域の潜在自然植生群の実生育成にも取り組む、ウラジロガシ、アカガシ、シロダモなどの実を各自ポットに播種育成する活動を四月二十九日(土)五月十四日(日)の二回行いました。

平成四年に播種し各自が育成している幼苗も三十センチをこえようとしています。来年は各自の幼苗を持ち寄って植栽を行います。

長岡を中心とする平野部の潜在自然植生であるヒメアオキ―ウラジロガシ群集の構成種の実生育成に更に取り組んでいきたいと思えます。

— 平成7年度活動報告 —

★テーマ 植物の生きざまに学ぶ

1. 早春の山野草を訪ねる
 - 方面 角田・西山方面
 - 期日 3月26日(日)
2. 春の野を歩き山菜を食べる会
 - ①●方面 東山・八方台方面
 - 期日 4月29日(土)
 - ②●方面 山古志方面
 - 期日 5月14日(日)
3. みどりを育てる会
 - ①樹木の播種 ●4月29日(土)・5月14日(日)
 - ②樹木の植栽(アカガシ・シロダモ 各2本)
 - 10月14日(土)長岡市下条神社境内
4. 夏の植物観察会兼合宿研修会
 - 方面 長野県・戸隠方面
 - 期日 7月29日(土)～30日(日)
5. 秋の野に学ぶ(キノコの識別、冬芽他)
 - ①●方面 上川村・ブナ原生林
 - 期日 9月23日(土)
 - ②●方面 北魚沼・川口
 - 期日 10月14日(土)
6. 学び合う会
 - 場所 長岡市幸町 「すし川」
 - 期日 12月2日(土)
 - 内容 ○スライド映写、○総会(活動反省、会計中間報告他)、○懇親、○忘年会
7. 機関紙の発行 第10号
 - 時期 12月2日(土)
 - 内容 活動のあしあと・感想・山野草へのおもいなど

冬からが

出番の夏坊主

細川 章子

晩秋のお天気に誘われ、鉢物の入れ替えをしました。夏からの鉢をひっこめ、葉ポタン、五色唐辛子で玄関を飾ることにしました。さらに一鉢、夏坊主も加えました。

夏坊主は、実名をオニシバリと言うそうです。樹皮が強靱で手では折れず、鬼を縛るのに適するとして付けられた名前だそうです。花は目立たないのですが、思い出のある木で、冬の玄関に飾ります。

数年前の早春、刈羽西山方面での山野草の会に参加しました。この方面への参加は初めてで、行く先々で、感動的な植物との出会いがありました。

一つ目は、スハマソウとの出会い。鉢物でしか見たことなかったスハマソウが一面に自生しているではありませんか。至福の一時を過ごすことができました。

二つ目は、夏坊主との出会い。群れ咲いているカタクリ・オオレン・シヨウジョウバカマ等に目を奪われていたその時、かすかな芳香に気づき、目を凝らすと黄色い花を着けた夏坊主が群生しているではありませんか。嫁ぐ前、実家の父が、この夏坊主を

冬の玄関に飾っていて、夏に葉を落とし坊主になるのでこの名前があると教えてくれました。変わった名前なので覚えていたその木に思いがけず出会ったのです。父の顔が重なり、妙に愛着を覚えて一株採らせていただきました。それ以来毎年冬から春にかけて玄関に飾り、つぼみがふくらんでいく様子を眺めています。

あの時の感動が忘れられず、山野草の会の例会の中では「早春の山野草を訪ねる会」を一番心待ちにしています。今から来春はどんな出会いが待っているか楽しみにしております。



妻有の植物を親しむ

品田 博道

十日町に住んで三年になろうとしています。山野草の会に殆ど出られない状態が続き破門されそうです。

しかし、会にはなかなか参加できないのですが、かつて山野草の会で学んだことが、十日町での生活に大きなおおいを与えてくれてあります。

学校（水沢中学校）の校庭の続きは自然そのままの山野になっています。グラウンドに面した斜面

の民有地を借り受け、遊歩道を設置して、生徒が山野草や小鳥と親しめる場所づくりをしました。

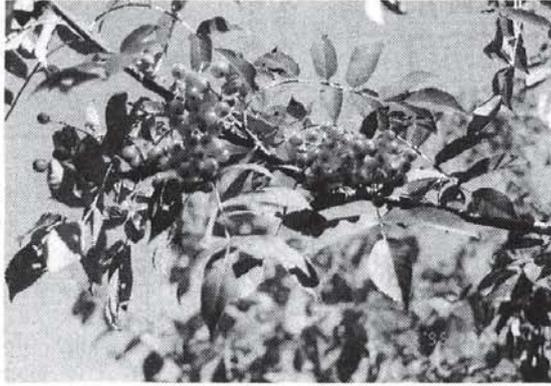
今年の春は、生徒と共に、コシアブラ、カエデ等の葉を摘み、山野菜を舌で楽しむ会をもちました。

また、林辺のクズ等のマント群落と林内のヒトリシズカ、ヤブコウジュ等の植物を、環境と関係づけて考える学習の場としています。

保護者の方々と、春、ウワミズザクラの花でアンニ

ンゴ酒をつくり、秋の夜長を住宅で試飲する会を楽しみました。先日は、オオバクロモジで楊枝をつくり、ナツハゼの実で、うまい酒づくりを競ったりしています。

今は錦織り成す紅葉のパノラマを居



ながらにして自分の庭としています。このように、自然の懐の中で、山野草から沢山の恵みももらいながら妻有の生活を楽しんでいます。

楽しい山遊び

増田 佳子

快晴の秋の日存分によい空気を吸いながらの自然観察は、すばらしい一日でした。

先生の説明を聞き、山に入りましたがなかなかキノコに出合いません。アツ、あつたと白い優しそうなキノコを見つけ名前はなんだろうと思いつつながら次を捜すが見あたらない。

山菜採りは、何回も行きましたが、キノコ採りは一生懸命土を見詰めて歩いていただけでは見えない。むずかしいと思いましたが。集合時間に集ったら皆さんの収穫の多いのに、びっくり。キノコの種類が何千種もあり、美しい色、変わった形のもの毒キノコであった。

いろいろとお話しを聞き実物を見て自然のすばらしさに感動いたしました。又青空の下で色づきはじめて山々を望め、キノコ汁の美味しかったこと等、よい思い出となりました。

山野草を訪ねる会に

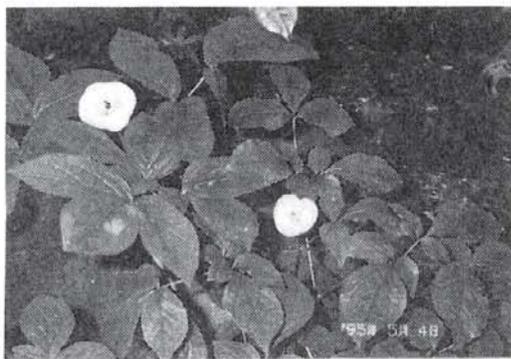
入会して

金子 稔

この春、半世紀勤務した会社を退職して第二の人生をどうして過ごそうかと思っていたら？ 年来の友のYさんに誘われて入会させて戴き、半年が過ぎ色々と自然について教わり今日まで何も考えないで山野を遊び歩いて山菜等を採るだけだった事を今考えると反省しなければならぬと思う様になった。

又、草木に親分子分や縄張りの有るといふ事にも驚いた、色々観察をしてみると確かに理にかなった種類がグループを形成している。

ぜんまい、蕨を例にとってみても先ず親分を探して子分を見つければ手っ取り早いとおも、今迄は山地の方向等を考えて探していたがそ



れだけでは無いようだ。確かに方向に依り日当たりの善し悪しがありその場所に最適な樹木、草木が集まるのだと思う。

親分となる大きな樹木が枝葉を繁茂させて子分を守っているからこそ森や林がある。

そのお陰で色々な植物が芽を出して繁茂して、やがては枯れて腐葉土となり菌類を育てて炭酸ガスを吸収して酸素が放出されて人間や動物達が生きてゆけるのだ。何か当たり前の事を大きな表現になってしまったが、最近はこの当たり前の事が人間の都合だけで壊されているようだ。

よらば大樹の蔭という諺が人間の世界だけでなく自然界にも有るような気がする。

私達が今までのように根こそぎ採取してしまつたら元の状態に戻るには大変な歳月を要するだろう。すこし遅かったけれども、この会に入会できたのだから一人一人は非力だろうが少しでも自然を残す事が出来ればと思う。

この先何年位ついでゆけるのかわからないが健康なかぎり皆さんと一緒に学習に参加させて戴きこれからも色々ご指導をお願いいたします。

◆ ◆ 秋の野に学ぶ ◆ ◆

秋の野山と

只見の紅葉

野口力雄

去年の春この会に初めて参加させて頂きいきなり能生町白山神社裏山のヤブツバキの群生林を見て、其の雄大さと神秘さに大変驚きました。その後色々の会で少こしばかり野山の植生などが見えて来た今年も、九月に上川村峰越林道、十月には川口方面と二回のキノコ採集で双方共に期待が



外れて残念でしたが、昼食でのキノコ汁が不作の労を癒してくれました。会長さんはじめ皆さんに感謝いたします。そして数日後の十月十八日友人に誘われて奥只見の銀山平から松枝岐方面に大文字草の植生でも見て来ようかと出掛けましたが、当地の道路が整備されて崖の肌はコンクリートで覆われており花は一向に見ることが出来ませんでした。快晴に恵まれ紺碧の空と枝葉の表裏に差込む日光に映える紅葉は過去何回も見たこの地に無かった美しさで、本当にスバラシイの一語でした。深山の樹木のそれぞれが私達に厳冬を迎える前の最後の演出をしてくれた想いが致しました。帰りの途中で丸太沢辺りに温泉がありプレハブ小屋の湯舟にタオル一本で浸ることが出来ました。



今年のキノコは 不作だった

小幡和雄

今年も、九月末に皆さんから遠く上川村までおいでいただき、ブナの原生林を観察していただきました。あの峰越林道に行ったのは私はこれで五回目です。いつ行っても素晴らしい大自然だと思います。春の芽吹き頃の美しさ、秋の紅葉のみごとき、いくら写真やビデオに収めても、収め尽くせない美しさとすごさです。

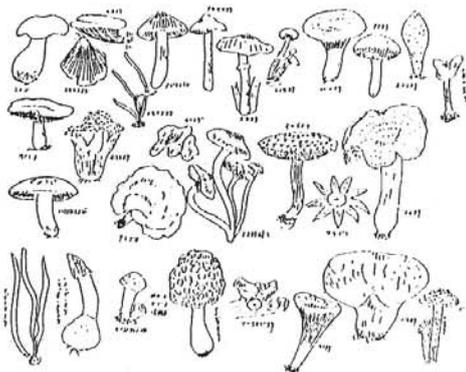
さて、今年のキノコ研修はいかがだったでしょうか。上川村の研修では昨年は大豊作でしたが、今年はずつぱりでした。私のせいではないのですが、やっ

5 おもてなしとキノコ

(1) 只見のキノコ採集



(2) 只見のキノコ採集



ぱりキノコは分らないものですね。なぜか帰りの車の中も静かだったように思います。

ところで、先日私の学区のマツタケ採りの名人に話を聞いたら、今年は何と三年に一度のマツタケは豊作で一人で何と三百本ほど採ったというのです。私も三本ほど採って、職員みんなマツタケご飯にして食べました。話によると今年のマツタケは九月の中旬からもう出ていたのだそうです。いつもより非常に早いのだそうです。そのためだれもわからなかったらしいのです。キノコはいつも山に入って調べていないとダメなようです。私も早く毎日山に行っていられる身分になりたいものだと思っていました。

雑感

吉田 千恵子

猛暑の昨年に比べれば幾分か涼ぎ易い今夏、戸隠への研修旅行に参加する。久方振りに行動するには恰好の日和りに恵まれ、人数分の弁当をマイクローに積み込み先ずは滑り出し順調なり。川西の二六公園のブナ林で観察・森林浴を何分の一か楽しむ。昼食後、大峰自然林へ行く予定が崖崩れの為車を進める事が出来ず、加茂神社(三野王)での観察と相成りネズコに初めてお目文字する。刺状の葉は今にも肌につきさゝりそうな様相でちよつと不気味に感じられた。ダンコウバイ・ヒトツバカエデは長岡では見る事が出来ないとか。

当日の宿泊先である戸隠高原ホテルを漸々の事にて尋ね当て素敵な？夕飯の膳を囲む事が出来た。翌朝、宿舎を十五分遅れで出立。鏡ヶ池で記念写真を撮ったり小休止の後、戸隠森林植物園へ立寄り奥社へと歩を進めたままではよかつたが往復四キロ余りの道程は少々厳しかった。が、然し杉並木の景観の素晴らしさに疲れも何処やら。名物のソバもちちゃっかり腹の街におさめ、松の山の美人林には挨拶もそこそこに帰路につく。

遊子来たるも
おもしろき哉

あせもひき
ゆきかふ風に



植物に耳がある

相田 ハツイ

楽しみにしていた山野草の会に参加してがっかりする事が一つあります。それは家の花と、山の花があまりにも美しさに違いがあるからでした。ある日、新潟日報抄に、早稲田大学の三輪敬之教授の随筆に「植物は雅楽を好む」というのがありました。観葉植物に、いろいろな音楽を聴かせ葉の電位変化を観察したところ、ロックやクラシックよりも雅楽に良く反応したという。特に鼓の音がお気に入りだったという。どうも植物は耳があるらしい。最近そんな研究をよく聞く。「きれいだね。」と声をかけ続けると本当にきれいな花を咲かせるという話も多い。又植物の心に触れたいと、葉の表面の微弱な電位変化を音に変える装置を開発した装置から聞こえる「声」

は、人が近づくと変わるほど環境変化に敏感に反応したという。若い女性には「ワー」と声をあげるとおじさんには知らんぷりの植物もあるというから愉快な話です。子孫を残すため植物は、美しい花と香りや鳥やチョウを集め、人



を魅了しております。美という普通の感性を人も鳥も植物も共有しておるのに、いつの間にか、植物の声を感ずる事を失っていった事に気がつきました。家の庭を見て「きれいだね」と声をかけつつつづいてる草花はたしかに美しい花をたくさん咲かせてくれます。来年からは心して花に接して行く事にしました。

キノコ研修に参加して

郡司 誠子

さわやかな秋の一日、第二回目のキノコ研修に参加しました。今年にはキノコが採れないということを知っていたので、フィッシュトックの恩恵にあずかろうと考えて、山に足を踏み入れました。ナツハゼ・アズキナシ・ウルシ・ツノハシバミ・ツルリンドウなど、赤や紺や緑の実や葉が次々と目に入り、その美しさに心洗われる一日でした。しっかりと写真におさめまします。植物は美しい実をつけ、子孫を残そうとしていたのです。

編集後記

「かしのみ10号」が皆様方の協力によりできあがりしました。「植物の生きざまに学ぶ」をテーマに会員一人一人が心の潤いと安らぎ、さらにはより望ましい人間生存環境の創造を願いつつ、本物の自然の認識に努力されていることうれしく思います。

一人一人の力は小さいと思いますが、集団として力を合せることにより大きな力となること信じてたしかな歩みが続けたい。

△小幡・吉田・品田▽

お昼はキノコ汁をたくさんいただき、澄みきった青空にそよぐススキを眺めながら、ついうとうととしてしまいました。幸せなひとときでした。この美しい自然を大切にしていきたいと新たに感じてさせられました。

ところで、キノコが成長する条件としては、半日かげで水分があり温度が20度C以下といわれています。キノコが採れないということは、山が荒れてきたのでしょうか。それ以上に、地球環境が変化してきているのでしょうか。この会では数年前から、緑を残そうとして、毎年数本ずつ神社にアカガシやウラジロガシなどを植えています。キノコ研修の朝訪れた神社には、三年前のもののがかなり大きく育っていました。我子の成長を見る思いで、皆さんとそれらの木々を眺めました。これからもスクスク育つことを祈りながら...